

# Keyword：新型コロナウイルス（その3）

新型コロナウイルスによるパンデミックの影響で、本誌発刊以来、初めて発行を3ヶ月間止めることになりました。国内の感染拡大はある程度収まった状況にはなりましたが、都内ではまだまだ感染が拡大傾向にあり油断できません。この3ヶ月で、世の中の動向も様変わりしました。当社のような業態は、本来テレワークには向きませんが、仕方なくテレワーク対応を実施しました。リモート会議も普通に行われるようになりましたし、いろいろな面で工夫がなされて来ましたが、ただ、確実に第2波がやって来ますので、それまでの間に、ワクチンなり、有効な薬が開発できなければ、また再び巣籠り生活を送らなければなりません。そんなコロナ禍、また中国から気になる情報が入って来ています。コロナでは、中国の情報公開が1ヶ月以上遅れたことが、今回のパンデミックに繋がっているわけですが、中国疾病予防抑制センターと同国の複数の大学の研究者らによると、今度は新型の豚インフルエンザが確認され、パンデミックが起きる可能性があるということです。新たに「G4」と名付けられた新型豚インフルエンザ株は、2009年にパンデミックを起こしたH1N1型豚インフルエンザに遺伝的に由来するということです。このG4株は感染力が強く、ヒトの細胞内で複製を行ったほか、フェレットでは他のウイルスよりも深刻な症状が観察され、既に豚からヒトへの感染が起きていることは証明されていますが、人から人へ感染が起きるかどうかについてはまだ証拠がないということです。今後、新型インフルエンザの動向にも注意が必要になって来ます。厄介ですね…。

さて、皆さんもニュースで散々PCR検査について、長所短所をお聞きになったことと思います。感度は良いものの、判定結果が出るまでに時間がかかるというものです。その時間的な欠点を補う新たな検査キットとして、「抗原検出キット」が5月13日に厚労省でスピード承認されました。実は、筆者が以前に勤めていた会社が開発したもので、開発メンバーの顔ぶれもわかっています。元々、世界初のC型肝炎の抗原検出系を開発したメンバーで、優秀な研究者が揃っています。抗原検出の原理上、どうしても感度はPCRには及びませんので、無症状者に対するスクリーニング検査には向きませんが、医師が新型コロナウイルス感染症を疑う症状があると判断した際の簡易検査には役に立つ製品になっています。第2波が広がる頃に、このキットが医療関係で活躍していると、第1波の時と比べて、早く患者を振り分けられるでしょうから、感染拡大もある程度抑えることが出来るのではないかと期待しています。さて、ちょっと横道に逸れ裏話となりますが、筆者が所属していた当時は、C型肝炎自体、少し前に命名されたばかりで、それ以前はA型肝炎でもB型肝炎でもない、新たな肝炎ということで、非A非B型肝炎と呼ばれていました。その後、その非A非B型肝炎ウイルスを、米国のベンチャー企業（カイロン社）が発見し、C型肝炎ウイルス（HCV）と命名しました。我々は、このウイルスを検出するための測定キットの開発を開始しましたが、そこにはカイロン社が出願した特許の壁がありました。彼らはウイルス（タンパク質）の全アミノ酸の配列を特許化していましたので、その配列を使った検出系は特許に抵触することになり、それを回避するための方法を日夜探ったのです。その結果、HCVの内部にあるコア蛋白の配列を認識する抗体を、遺伝子工学的にキメラ蛋白質を使って作りだし、コア抗原の検出系を確立することに成功したのです。それまでの抗体検査と比較すると感度も良く優れたものになり、またカイロン社とも製品のパートナーで折り合いがつき現在に至っています。とまあ、そういう優秀な研究者集団が開発したのが、今回のSARS-CoV-2抗原検出用キット（製品名:エスブライン）と、6月19日に承認された唾液を検体として抗原を測定する抗原検査試薬「ルミパルス SARS-CoV-2 Ag」ということになるわけです。

ところで、一時的なマスク不足も解消され、市場には普通にマスクが出回るようになってきました。まだまだ正常な価格とは言えませんが、それでも無いよりはずっとましです。通称「アベノマスク」は、5月末の段階では47都道府県中、概ね配布が完了したのは東京のみという状況から、6月15日には概ね全世帯へ配布完了ということで、かなり時間は要したものの、第2波には間に合っただけです。そんなマスク市場には、最近、衣料メーカーなど各社が様々な素材で参入して来ています。恐らく、このコロナ禍以降、マスクはファッションの一部となるのでしょう。服とコーディネートしたり、オシャレなマスクが続々と発売されることでしょう。そこで、筆者の周りにも勘違いしている人が結構多いので、改めて申し上げておきますが、衣料メーカー等が発売している「洗って使える」マスクは、医療用マスクではありません。あくまでも飛沫飛散防止のエチケット用のマスクです。つまり、自分から他人に飛沫を通じて感染させないようにするためのマスクであって、マスクをしている自分が、ウイルスや花粉などから守られるわけではないということです。マスクをしていると安心感がありますが、それは、相手にとって、飛沫が飛んで来ないという安心感であって、この洗って使えるマスクをしている本人は、感染のリスクは無くなっていないということです。これを勘違いしている人が多いので、改めて知っておいて下さい。洗って使えるマスクの商品パッケージをご覧になれば明らかですが、どこにも微粒子捕集効率（PFE）%等の表示はないはずで、また但し書きで、「飛沫飛散防止用としてお使い下さい」とか記載されているはずで、です。人混みに行かない場合は問題ないですが、電車通勤などをされている方は、VFE、PFE、BFEの%表記のある使い捨て不織布の3〜5層マスクで、しっかりガードして下さい。最近話題になっている水着素材で作ったマスクやニット生地などを使ったマスクは、あくまでも飛沫飛散防止用のマスクであることをお忘れなく。確かなマスクを使用したい方は、パッケージに、**VFE、PFE、BFEが99%以上**と記載されたマスクを選ぶと良いでしょう。さて、そんな中、最近発売されたユニクロの「エアリズムマスク」やHoneysの「接触冷感・エコマスク」は、これまでのポリウレタン製のマスクとは違い、防衛性能が優れたものになっています。「洗って使える」マスクを選ぶなら、こんなマスクなら安心でしょう。



**注意！殆どの「洗えるマスク」は、「飛沫拡散防止用」です。ウイルスの感染を防ぐものではありませんので勘違いしないで下さい。**

**AIRISM** (air conditioning technology)

高性能フィルターで飛沫をブロック。なめらかな肌ざわり。洗える、エアリズムマスク新登場。

エアリズム素材  
粒子をカットするフィルター  
裏側裏カットのメッシュ素材

Honeys 安心の三層仕立て  
通気性99%以上  
吸気・吸湿、花粉・ウイルスカット  
吸気・吸湿、花粉・ウイルスカット  
肌にあそびやすく顔面密着型  
顔にぴったりフィットする3層構造  
2枚装  
「接触冷感」エコマスク (花柄レース) ¥580(税込)

## T O M O K O ' S R E C O M M E N D

在宅時間も長くなり、音楽でも聞こうかしらと思う方も多いのではないのでしょうか。久しぶりのadtainで久しぶりのおススメミュージックの紹介です。テキサスのトリオ、Khuangbin(クワンビン)の最新アルバム『Mordechai(モルデカイ)』です。ゆるっとしたグルーヴを持ち味とするインスト・バンド。昨年のフジロックではFIELD OF HEAVENのヘッドライナーを務め、バンドだけでなくDJとしても参加しました。Khuangbinの名を一躍知らしめた「Friday Morning」は1000万回を超えて再生され、早耳リスナーの間では注目のバンドとなっています。見た目はサイケデリック、中身はファンクだけと言語化しがたい無国籍サウンドは、懐かしいような古いような…でも全然ダサくなくてカッコいいのは、卓越したセンスと、ノリだけではなく考え込まれた巧妙なテンポ感やグルーヴ感なんだろうと思います。絶妙のけだるさがかく心地良いのだから。ベーシストのローラ・リーのライブパフォーマンスでの動きもセクシーで釘付けです。このジメジメ、ムシムシした梅雨に、冷房の効いた部屋で聞いてみて下さい。ここではFIELD OF HEAVENかしらと、嫌な気分も吹き飛びますよ◎



ご意見・ご感想は [adtain@adproject.co.jp](mailto:adtain@adproject.co.jp) まで メールでお寄せください。  
発行：株式会社エディープロジェクト 〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-27-4 [www.adproject.co.jp](http://www.adproject.co.jp)

↑上のスペースを外部的にも開放致します。是非、寄稿をお願い致します。詳しくは、こちらまで→<http://adtain.tokyo/contribution/>

皆様の いいね！をお待ちしております。

facebook adproject

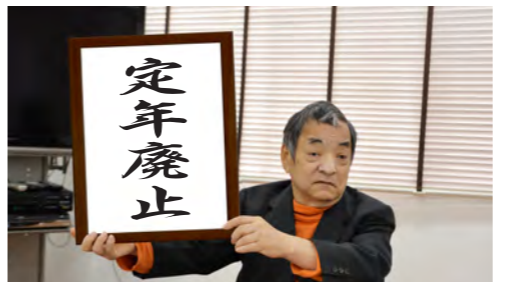
adproject がお届けするエンターテイメント情報を随時UP!!

もしくは、<https://www.facebook.com/adproject.japan>

# 2020 7 Legend

檜垣俊幸がモノ申す！⑬

## 定年なんていらない！



ゼネラルプロデューサー 檜垣 俊幸

### 新しいことを考えていくことが大事

コロナ禍で、zoom や LINE を使ったりリモートワークが常態化して、家にいながら色々できることが広がってきています。というより、いやでもそういうところを今後普及させていかざるを得ない社会になっているということです。政府や行政が保証を渋って尻込みをしている現状では、「これができないのなら、こうしよう」と知恵を絞らなければ生きていけません。緊急事態では何を考えなければならぬのか？ それはお金であり経済的なことです。我が社は、クライアントありきの仕事だからクライアントの体力がなくなってくると広告を出す余裕がなくなってくるので影響は多大です。これからはクライアントに頼らず自分で売り上げを出せるような仕事を生み出していくことを考える必要があるのかもしれない。

今回のような状況では、ありとあらゆる新しいことを考えていくことが大事です。その新しいこととして、私が考えたのは、「定年なんかなくていい」ということ。つまり「定年廃止」です。これからは110歳くらいまでは皆生きると言われています。定年廃止が実現したら新しい生き方や考え方が生まれることは確かだと思います。

定年廃止のシステムづくりのためには「俺は150歳まで生きるんだ」というような、人生の目標を設定することが重要で、それに対して、それを実現するためには、どういう医療体制が必要か、経済対策が必要かということを考えなくてはなりません。無責任に「100歳社会だから老後は2000万円必要」などと言っただけでいい問題ではないのです。どうすればいいかを専門家組織が構造式をつくることを早急にやるべきなのです。

令和元年11月の厚労省調べでは、66歳以上働ける制度のある企業は30.8%（対前年3.2ポイント増）で、70歳以上働ける制度のある企業は28.9%（対前年3.1ポイント増）。そして、



モデル：Iness / Height:169cm B:85 W:62 H:88  
事務所：ARTRICK ENTERTAINMENT (アートリック) <http://artrick.com>

### adtainとは、adprojectとentertainが融合した「おもてなし」のトピックス誌

定年廃止をした企業は2.7%（対前年0.1ポイント増）となっています。昔は定年と言ったら55歳でした。今から考えると、その年でリタイヤして何をして余生を過ごすのたのしいだろうと思います。昔は年金で十分に暮らしていたのかもしれないですが、現代社会ではそうはいきません。多くの人は死ぬまで働いて生活費や税金・介護保険料を払い続けなければならないのが現実です。

### スキルのある年寄りになる

経済的な理由もありますが、働いて体を動かしていた方が脳も活性化して長生きできるというデータもあります。未長く健康であるためには、働き続けることも不可欠なのです。働けなくなったら辞めればいわけで、いずれにしても定年で区切るのではなく、本人のやる気や自由意思とするのがいいのではないかと思うわけです。問題として考えられるのは、ただいだけでお荷物になって困るとのこと。自粛によるリモートワークで、パソコンのスキルがない年配者は、かなり困っているときますし、また、役職について高給を取っている人間たちが、実際はなくても仕事をはかどり、会社が機能することがバテてしまったなんて話もありました。そう考えると、やはりスキルがある年寄りにならないといけな。若者にオンブに抱っこで働き続けても意味はないのです。これは、何も特

別な資格が必要ということではありません。会社の役に立つ人材というのは、極端に言えば宴会芸で社員に活力を与えるなどでもいいわけで、会社から「あの人がいてくれた方がいい」と考えてもらえるような何かしら役立つ人材でいることが大切なのです。

定年制度廃止ということが掲げれば、物事を考えるきっかけになるでしょう。ゴールがなければ、まだまだ先に走っていけるわけです。定年制度がある現状では、定年に近づくと、シャレではないですが「諦念」の感もある程度出て、踏ん張ろうという気持ちも失せるでしょう。何事もなくじっとして定年を迎えて、悪い事をしなければ退職金を受け取って（公務員は悪い事をして退職金をもらえるようですが）と考えるのが普通でしょう。「立つ鳥跡を濁さず」の気持ちでいても、多くはなし崩しで定年を迎え、その後は属託や業務委託、アルバイト扱いで特に望まれるわけでもなく同じ会社や関連企業で働いたりするのではないのでしょうか。

まあ、これまでの話は、一般的な会社での事で、世の中には様々な職種があるわけで、一概にどうこうできるものではないのが現実です。我が社の場合は、まさに個人の能力が生かされてこそ成り立つ業種ですから、なおさら定年廃止向きの企業だと言えるでしょう。このことは、今後の課題とすべきだと思います。

(次号へ続く)



木村 亜美

■Theme：『週刊バイクTV (チバテレ)』観てね！

2020年4月から、オートバイ情報番組のアシスタントを務めております。千葉テレビ放送(チバテレ)にて毎週水曜 22:30~23:00 (土曜 15:30~16:00[再]) 放送の『週刊バイクTV』という番組です。オートバイ情報番組としては最長であろう、放送開始から16年という長い歴史をもつ『週刊バイクTV』は、この春に内容を一新、これまでの良い部分を引き継ぎつつ、さらに幅広い分野に於いて、“バイクの楽しみ方”などをお伝えする番組に生まれ変わりました。昨今の事情により、自粛期間中は“お役立ちグッズのご紹介”や“新型バイクのお話”などを番組内でさせてもらい、環境や条件が整い、ソーシャルディスタンスを確実に守りながらのサーキット走行も少々いたしました。晴れて世の混乱が収まり、これまで通りの活動が許されるようになりまして、改めて“オートバイ”という、まさに『自由』を感じることができる乗り物の良さ・楽しさを、『週刊バイクTV』を通して皆様にお伝えできればと思います。(※お住まいの地域により、放送局や時間帯などが異なります。詳しくは下記をご覧ください。)

【週刊バイクTV (チバテレ公式)】▶<https://www.chiba-tv.com/program/detail/1010>



# Project 3.

PRODUCER：松延 智明

■Theme：新型コロナウイルスの影響

■Date：2020年7月



7月と言えば、東京オリンピック・パラリンピック開会式があったはずの月ですね。少し前の話になりますが、振り返ると1月の下旬、良くお会いする方の娘さんがマスクをして現れました。「インフルエンザだったら、近づかないでよ！」とわたしが冗談を言うと、彼女は「コロナウィルスが心配で、予防のために」と苦笑い。当時、身近に対策をしている人は彼女しかおらず、わたしの近くにいた仲間たちは誰も気にする様子はありませんでした。ちょうど、横浜のクルーズ船が話題になったばかりのこと。いま思えば、「まさかここまで」というのが正直な感想です。

当社の得意とするイベントは軒並み中止・延期となり、その打撃ははかり知れません。一方で、医療に従事される方々や食品の流通に係る業界は「忙しい」では表現が足りないほどの状況にあります。また、その裏で粛々と働く方々もいます。わたしのお客様もインフラ整備に関連する方々は、通常通りの仕事をされています。当然、感染防止に努めながらになりますから、仕事量は増えるわけです。それでも「粛々と」決められた期限を目指して、プロジェクトを進めています。

ふと、思い出しました。かつて、尊敬する先輩がわたしに言いました。「発生した大きなトラブルを解消して達成感を得てもあまり意味はない」「日々の小さなリスクを一つずつ回避して、大きなトラブルの芽を摘め」。要するに「日常的に粛々と仕事を進められている人がいちばんスゴイ」というもの。過程はズブズブだったのに、最後に起きた絶望的なトラブルを一致団結して解決した、というのは小説やドラマでは盛り上がりませぬ。でも、実際にそんなことばかりではリスクが大きすぎて、たまったものではありませんよ。

なぜか、先輩の言葉を思い出して、ゆるみっぱなしだった自分を引き締めないといけないという思いになりました。「新型コロナを乗り切ろう！」というかけ声は、いま必要なものかもしれません。乗り越えた先に大きな達成感があるかもしれません。しかし、そのかけ声に寄りかかってしまうと、新型コロナのせいにして甘えてしまいうる自分があります。こんな時だからこそ、「粛々とできることを確実にやるんだ」と自分を奮い立たせて……いますが、おそらく人よりもビビりなわたしは、電車に乗るのが本気でコワイです(笑)。余談ですが、高いところは嫌い、飛行機にも乗りたくない、コワイ・イタイことはすべて避けたいです。なので、マスクと手洗い、アルコール消毒は確実に実行しています。いまは、どこに行っても消毒液が置いてありますが、遅まきながらマイ消毒液を持ち歩こうかと検討中です。治療薬やワクチンがない現状では、自衛だけが感染や拡大を抑制できる手段ですからね。早く治療薬ができてほしい……そうすれば、風邪やインフルエンザと同じように新型コロナとも共生できますよね！でも、注射は絶対にイヤなので、ワクチン注射はできればしたくない……。




# Project 1.

**コラ** 世界最多！30,000匹超の金魚が泳ぐ、唯一無二の「生命の宿る美術館」  
**アートアクアリウム美術館**  
 2020年8月東京・日本橋にオープン！  
 EXECUTIVE PRODUCER：岩澤 はやと

Producer's column  
 アートアクアリウム製作委員会は、2020年8月に「アートアクアリウム美術館」をオープン致します。作家・総合プロデューサー木村英智氏が手掛けるアートアクアリウムは、今年で14年目を迎え、累計来場者数1,000万人を超える水族アートの展覧会です。この夏、東京・日本橋に三井不動産(株)が建設した2階建ての専用施設にて常設展を開業。延床面積は約2,321㎡で、従来の日本橋会場と比較すると約3倍の広さとなり過去最大の大型展示となります。

■「生命の宿る美術館」  
 夏の風物詩として愛されてきたアートアクアリウムが、年間を通して四季折々の空間を演出する大型常設展示へ。来るたびに変化があり、新しい発見がある新感覚の美術館となります。東京での夏以外の開催は今回が初。更に、「命」「光」「音」「香」「味」の感覚を刺激するオリジナル空間をプロデュース。エンターテインメントへの人々の価値観に変化が訪れる節目のタイミングの今だからこそ「五感で感じる」にこだわり、「訪れないと味わえない」「リアルならではの」アートを徹底して追求しました。そんな「生きる」美術館です。

アートアクアリウム美術館



**アフターコロナに向けて**

PRESIDENT：檜垣 俊吾

3月に入り、おびただしい数のイベントやローンチが延期され、移動も制限されるようになった。業界のあいだでは当初、新型コロナウイルスによる大きな影響は短期的との見方が多かったが、結局4カ月以上も続くこととなった。今やウィズコロナ、アフターコロナと言うように現状が長く続く前提でのスキルが求められ、どの業種も試行錯誤しながら進めているが、目に見えない敵であるが故に正解がわかりづらく、それが余計に悶々させると。ただ今回のコロナによって、オフライン志向であった企業やユーザーの意識が変わったのは顕著で、通常であればネット上での広告配信を行わないような企業がメールマガジンを始めたり、今までメールやLINEなどの連絡を取り合うツールに接点を持たなかった人がコロナによって、これらのメッセージツールをひと通り使うようになったりと、オンラインツールのアクティブユーザーが増えたと言える。これによってユーザーにどういった行動変容が起きているかを考え、ビジネスを行うことが大事である。今やデジタルメディアが主流であることはもちろん、その中でもエンタメ性の高い広告や、心だけでもコロナ社会から癒されるようなクリエイティブを、どう作り上げていくかを考えることが必要。これからの広告業界に大事なものは「コンテンツ作り」であり、喋りがうまい人が勝つのではなく、コンテンツが良くないと厳しい時代。B to BにしてもB to Cにしても、会ってから決めるというよりは、会うまでに概ねリサーチし、先方のコンテンツ力を調べて決めていることが多いと実感している。良いコンテンツをつくれる会社、コンテンツマーケティングを極める企業が今後強いと考える。

**コロナに負けない  
 みんなで頑張りよう！  
 Positive mind!!**


**天下の奇祭**

第2プロジェクト 土井 晃範

連日のように暗いニュースが流れていますが、笑顔の溢れる「場」作りに携わる者として、こんな時だからこそ、ご紹介させていただきます。私の地元(山口県府市)には、天下の奇祭と呼ばれる「笑い講」という神事があります。始まりは1999年の鎌倉時代まで遡り、祭り自体は農業祭で一年の収穫に感謝し、来る年の豊作を願うという趣旨のものであったようです。

私が小学生の頃は、学校の一大イベントとして、年に一度小学生用アレンジしたルールで開催されていました。各学年1人ずつが集まってチームとなり、全校生徒の前で「ワッハッハ」と3回大きな笑いを披露します。ただそれだけ。

感染防止の観点からすると、今は開催が厳しい祭の一つではありますが、こんな時だからこそ疫病から身を守る免疫力を付けるために精神的な潤いは絶対的に必要だと思いますので、天下の奇祭の元に産まれた使命として、笑顔の溢れる「場」を作り続けていきます。



# Project 2.

弓狩 章裕

■Theme：ライブ配信

現在、新型コロナウイルスの影響で、ビジネスセミナーやエンタメライブイベント、新製品発表会などあらゆるイベントが中止や延期となり、その在り方や運営方法が大きく変化しています。今求められているのはオフラインではなく、オンラインでのイベントニーズ。インターネットを活用したライブ配信に対するニーズが非常に高まっています。ライブ配信の魅力は何といっても、手元のデバイスでリアルタイムにその臨場感が味わえること。高速回線や定額利用の料金体系、スマートフォンなどが普及したことにより、イベント会場に行けない人向けにコンテンツを提供できる環境が整いました。さらに、ライブに合わせて関連コンテンツをひも付けたり、舞台裏の情報を発信したりすることで、ユーザーに多角的な楽しみを提供することが可能です。ライブ配信した動画は、リアルタイムで視聴できなかった人も後で視聴できるよう、二次活用することが可能です。ライブで利用した動画を編集加工し、Webサイトに掲載しオンデマンド配信を行います。特にテレビで中継されないスポーツや、音楽イベントへのWeb配信需要は根強く、人気があります。コアなファンがSNSなどを通じて拡散することで、より多くの視聴数を稼ぐことも可能です。地方で行われるイベント配信や、特定のファンに向けたシークレットコンサート配信、大学の入学式や卒業式といった式典などでも、ライブ配信サービスが活用されるシーンが増えています。アイデア次第でさまざまな新しいサービスを提供できるため、マーケットの拡大と企業のブランディング化が図れるのが、ライブ配信サービスの大きな魅力と言えます。新製品発表会、大人数に向けたビジネスセミナー、音楽イベントやエンタメイベント、株主総会や決算発表、社内広報、周年イベント、社内研修、講習会など、今までたくさんの人を集めてオフラインで実施していたことは、全てライブ配信を活用することで代替できる可能性があるため、この機会に是非検討してみても如何でしょうか。

【ライブ配信プラットフォーム】

無料のライブ配信プラットフォーム  
 無料で多くのユーザーにライブ配信をしたい場合

YouTube Live  
 Facebook Live  
 etc...

有料のライブ配信プラットフォーム  
 企業のライブ配信などで、もっとクローズドに行いたい場合や、求める機能が多い場合は有料のライブ配信プラットフォームを検討


IBM Video Streaming  
 J-Stream Equipmedia  
 etc...

PRODCER：岩下 信而

■Event：ありがとう、レモンの石鹸

■Date：2020年7月

■Place：東京



感染拡大防止のため、エンタメ「リモート」での制作が求められているが、生(ライブ)における「インパクト」や「感動」が身体に染みついていくほどに手には、どうも物足りない。「リモート」は、ライブ以上に表現力(演技力)や、シナリオ(演出力)が必要になると思われる。メジャーな人の「リモート」作品でも、結構「イタイ」やつ見かけるでしょ。すなわち、実は予算もかかるのです。ぼくらエンタメを生業に選んだ者の性として、クリエイティブとアカウントのジレンマ(きゃ、百合子みたいで恥ずかしい)は、さらに深まってゆくのであった。

昨年末中国で発症した際に、アルベルト・カミュの「ベスト」と共に真っ先に浮かんだエンタメは、映画「コンテイジョン」(2011)。ぼくのご最良で世界一の「美しさ」と「性悪さ」を兼ねたといわれているグイネス・パルトロウが、香港から帰国直後に急死、やがてそこから世界中に新型コロナウイルスが蔓延……。10年前の作品ながら、現在全米のiTunes等で「ハリボタ」に続くヒットだそう。今年の状況から万人にはお勧めしませんが、「教訓」や「予言」になるメッセージが詰まった見えたえある作品。マッド・デimonら出演者による感染拡大防止メッセージのYouTubeも話題になりました。YouTubeといえば、弊社横田◎のスカヨハ、最近のぼくの◎マゴット・ロビーらハリウッド女優や女性スタントたちが、Stay Homeの最中、リモート撮影で喧嘩リレーをする作品「BOSS BITCH FIGHT CHALLENGE」。彼女たちが各自のスキルを活かした演出はお見事。未見の方は是非！

標題はジャーナリスト有本香さんのSNSから。「私が通学した約50年前の田舎の学校でも、廊下に並ぶ水道の蛇口ひとつひとつにネット入りの(レモンの)石鹸がくくりつけられていて、手洗い、うがいの励行を厳しく指導された。家庭でももちろん。これ、素晴らしいことだったのだと今思い知る。同世代のぼくは、この石鹸を思い出して、あわてて手洗い、うがいを行っています。ぼくはこの3か月で、ウクレレが少し上達しました。皆さん、一秒でも早い終息を願い、引き続き頑張りましょう。では次号、Ciao!

